

## ◇編集後記◇

私も昨年より JOH・産業衛生学雑誌の副編集委員長を仰せつかっています。それまでは多くの論文査読はしてきましたが、編集委員会のメンバーになることで、実際に投稿を受ける側の気持ちや立場がよくわかるようになりました。当然ではありますが、編集委員会は全てボランティアとしての活動です。その仕事をこなしつつ、自分自身も研究者として論文を書いているわけですが、はっきり申しましてハードな仕事です（いや、編集委員長はもっと大変だと思っています）。

さて、それでは論文とは何でしょうか。様々な言い方があるでしょうが、私は若手の研究者に次のように言っています。

1. 自分たち（著者）が発見した
2. 他の人々にも伝える「科学的」価値があると信じる事柄を
3. 他の人々にもその価値がわかるように作成した文章

他の人々とは、物理的・精神的に近い順に同僚、編集者および査読者、そして雑誌の読者です。ですから、論文ができたなら、まず身の回りの共著者でない研究者に読んでいただいて欲しいと思います。その人たちがわからないところは、編集者や査読者も理解できないでしょう。そして編集者や査読者が理解できないことは、読者も理解できないだろうと思います。また、「価値がわかるように」とは、明瞭であること、正確であること、簡潔で

あることを意味します。ちょっと挙げただけでも数値の不一致、用語の不統一、本文と図表の不一致、タイプミスなどが、残念ながら目立つ投稿があります。そもそも、複数の著者らで入念にチェックした論文なら、これらのミスはあっても極めて少なくなるはずですが、さらに基本的なことかもしれませんが、投稿規定をよく読んでいないと思えたり、論文の形式が（JOHにせよ、産業衛生学雑誌にせよ）合っていない論文があります。こちらは、実際に雑誌を手にとって見ればすぐにわかるはずですが。

読者の方々がこの編集後記を読むのは事後になるかもしれませんが、5月下旬に福岡で第82回産業衛生学会が開かれます。前回の編集後記に森本先生も書かれておりましたが、22日午後4時から会議室401において、「編集委員長と話そう」という企画があります。私はその中で、「Editorとして」と題して発表をすることになっています。編集委員会のメンバーとして、論文をチェックするにあたりどのようなことを考えているか、そしてどんな論文を待っているか、率直にお話しします。皆様の論文投稿にあたって、役に立てるような内容にしたいと思っています。無論、質問も歓迎です。ぜひ皆様のご参加を願っております。

（井上和男）

## 「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：川上憲人（東京大）

副委員長：荒木田美香子（国際医療福祉大）、井上和男（帝京大）、上島通浩（名古屋市大）、  
車谷典男（奈良医大）、堤 明純（産業医大）、福島哲仁（福島医大）、森本泰夫（産業医大）

有澤孝吉（徳島大）、石竹達也（久留米大）、市場正良（佐賀大）、小笹晃太郎（放射線影響研究所）、掛本知里（東京女子医大）、川口陽子（東京医歯大）、熊谷信二（大阪府公衛研）、黒沢洋一（鳥取大）、河野公一（大阪医大）、酒井一博（労働科学研）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（独法労働安全衛生総研）、塩飽邦憲（島根大）、菅沼成文（高知大）、笠島 茂（国立保健医療科学院）、埴田和史（滋賀医大）、竹内 亨（鹿児島大）、田中昭代（九州大）、谷川 武（愛媛大）、土井由利子（国立保健医療科学院）、中尾睦宏（帝京大）、橋本英樹（東京大）、馬場園明（九州大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、丸山総一郎（神戸親和女子大）、三木明子（筑波大）、村田勝敬（秋田大）、森 満（札幌医大）、森河裕子（金沢医大）、八幡勝也（産業医大）、吉田貴彦（旭川医大）、若林一郎（兵庫医大）、渡辺博且（産業医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番